



長野市公共施設マネジメント ニュース・レター Vol. 18 令和3年9月 長野市



第
18
号

「公共施設の現状2021」を公表しました

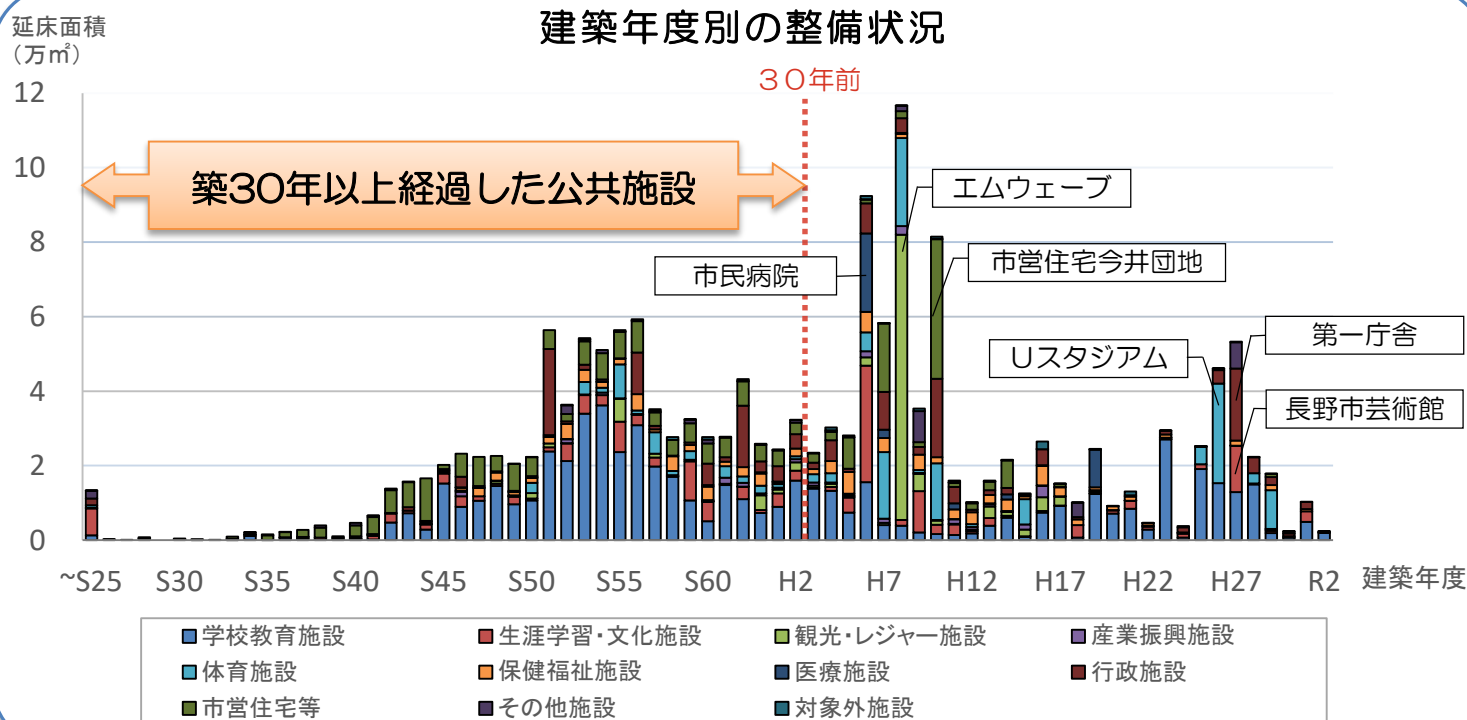
このたび、令和3年4月現在の公共施設（建築物）の総量等について取りまとめ、「公共施設の現状2021」として公表しました。施設数、延床面積とも前年度を下回りましたが、市民一人当たりの延床面積は、依然として全国平均（※平成24年3月総務省調査による）の3.2㎡を上回っています。

項目		2020公表値 【R2.4.1現在】	2021現 状 【R3.4.1現在】	増 減 [前年度との差]
人 口（人）〔A〕		373,971	372,080	△1,891
施設保有量	施 設 数	1,376	1,367	△ 9
	延床面積（千㎡）〔B〕	1,673	1,658	△15
	市民一人当たりの延床面積 （㎡/人）〔B/A〕	約 4.47	約 4.46	△0.01

公共施設の整備状況

建築から30年以上経過している老朽化施設の割合は、公共施設全体の半分近くになっています

昭和51年から昭和56年をピークに、積極的に整備を行ってきた公営住宅や学校施設等は、すでに建築から40年以上が経過しており、大規模な改修工事や全面的な改築が必要となっています。オリンピック関連施設もこれから一斉に築30年を迎え、老朽化対策として、今後、大規模な改修工事等が必要となります。

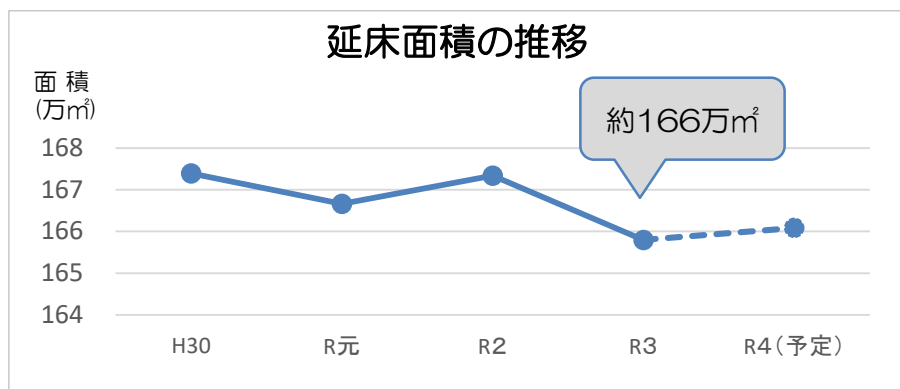


(次ページに続く)

近年の延床面積の推移

平成29年度以降の公共施設の延床面積の推移（右図）をみると、令和2年度の延床面積は、昨年度より減少し、約166万㎡となりました。

延床面積は、今後も少しずつ増減しながら、長期的に減っていく見込みとなっています。



延床面積が減った施設 ・ 増えた施設

令和2年度の公表値から、延床面積が増減した主な公共施設は、下表のとおりです。今年度の総延床面積は、令和2年度から、約1万5千㎡減少しました。これからも、施設のあり方を検討しながら、将来の負担軽減に向け、公共施設マネジメント推進に取り組んでいきます。

延床面積が増減した主な公共施設

(単位: ㎡)

面積減の施設		面積増の施設	
旧清掃センター〔解体〕	△10,632	朝陽小学校〔屋内運動場 新築〕	2,015
城山庁舎〔解体〕	△4,164	中条総合市民センター〔新築〕	2,279
旧篠ノ井交流センター・旧篠ノ井支所〔解体〕	△2,407	松代荘〔増築〕	568
市営住宅美濃和田団地〔28号棟他8棟 解体〕	△1,289	七二会支所〔新築〕	424
旧戸隠老人福祉センター〔解体〕	△649	戸隠福祉企業センター〔新築〕	398
旧上駒沢教職員住宅〔売却〕	△304	市営住宅返目団地〔増築〕	283
長沼児童センター〔解体〕	△300	資源再生センター〔増築〕	230
市営住宅 川中島団地〔解体〕	△284	茶臼山公園〔オラウータン舎 新築〕	132
市営住宅柳原団地〔21号棟他1棟 解体〕	△57	長沼分団詰所仮車庫〔新築〕	17
長沼分団詰所〔解体〕	△65	豊野第四分団詰所車庫〔新築〕	17
若穂分署牛島水防倉庫〔解体〕	△40		
旧鬼無里中央一分団新倉車庫〔解体〕	△19		
柳原分署長沼支所水防倉庫〔解体〕	△11		
その他〔面積錯誤等〕	△3,444	その他〔面積錯誤等〕	1,906
合計	△23,665	合計	8,269

増減 △15,396 ㎡

(写真) 令和3年1月にリニューアルした松代荘



<正面玄関>



<増築した露天風呂>

「PPP / PFI」ってなあに？(第2回 / 全4回)

PPP/PFIについて、前回から全4回に分けて紹介しています。

第2回目は、これまで行政が採用してきた従来型手法とPFI手法との違いをお示しします。なお、下段のサウンディング型市場調査もPPP（公民連携）の取組の一つです。

従来型手法とPPP手法の違い

	従来型手法	PFI手法
実施方法	施設の設計・建設・維持管理・運営業務を分割して年度ごとに発注	施設の設計・建設・維持管理・運営の全ての業務をPFI事業者が一体的に長期間担う
発注方法	仕様発注 (発注者が構造・材料・施工方法等の詳細な仕様を定めて発注する方式)	性能発注 (発注者が求めるサービス水準を規定し発注する方式)
資金調達	市(一般財源、起債、補助金等)が調達	PFI事業者が金融機関等から調達
事業者選定方法	価格競争による入札	公募型プロポーザル方式※1又は総合評価方式※2

※1 価格ではなく、企画や提案内容で受注者を決定する方式
※2 価格に加え、価格以外の要素を含めて総合的に評価する方式

PFI手法では、設計・建設や維持管理・運営といった業務を一括で発注するとともに、性能発注といって“性能を満たしていれば細かな手法は問わない”発注方式により業務をゆだねます。また、設計、建設に必要な資金は、PFI事業者が金融機関等から調達するのが一般的です。これらにより、民間のノウハウを幅広く活かした、安くて質の良い公共サービスの提供が期待できます。

飯綱高原スキー場の後利用に関するサウンディング型市場調査を実施します

長野市では、令和元年度をもって廃止した飯綱高原スキー場の跡地を有効活用し、飯綱高原の魅力アップにつなげていくに当たり、市場の動向や事業アイデア等について、民間事業者から広くご意見をお聞きするため、「サウンディング型市場調査」を実施します。



<旧飯綱高原スキー場>

民間事業者と対話する前段として、令和3年8月6日に現地で説明会を開催し、15団体にご参加いただきました。

9月中に対話を実施し、その結果を11月以降に市のホームページで公表します。その後、対話内容等も参考の上、今年度中に事業者を公募し、決定する予定です。

※「サウンディング型市場調査」とは

事業の検討にあたって、民間事業者（企業・NPO 法人等）から広く意見・提案を求め、市場性の有無や民間のアイデア等を把握するために実施する調査です。



<ハイランドホール飯綱>

飯綱高原スキー場の後利用に関するサウンディング型市場調査の詳細は、こちらをご覧ください。



勤労者福祉施設の再編の方針案について

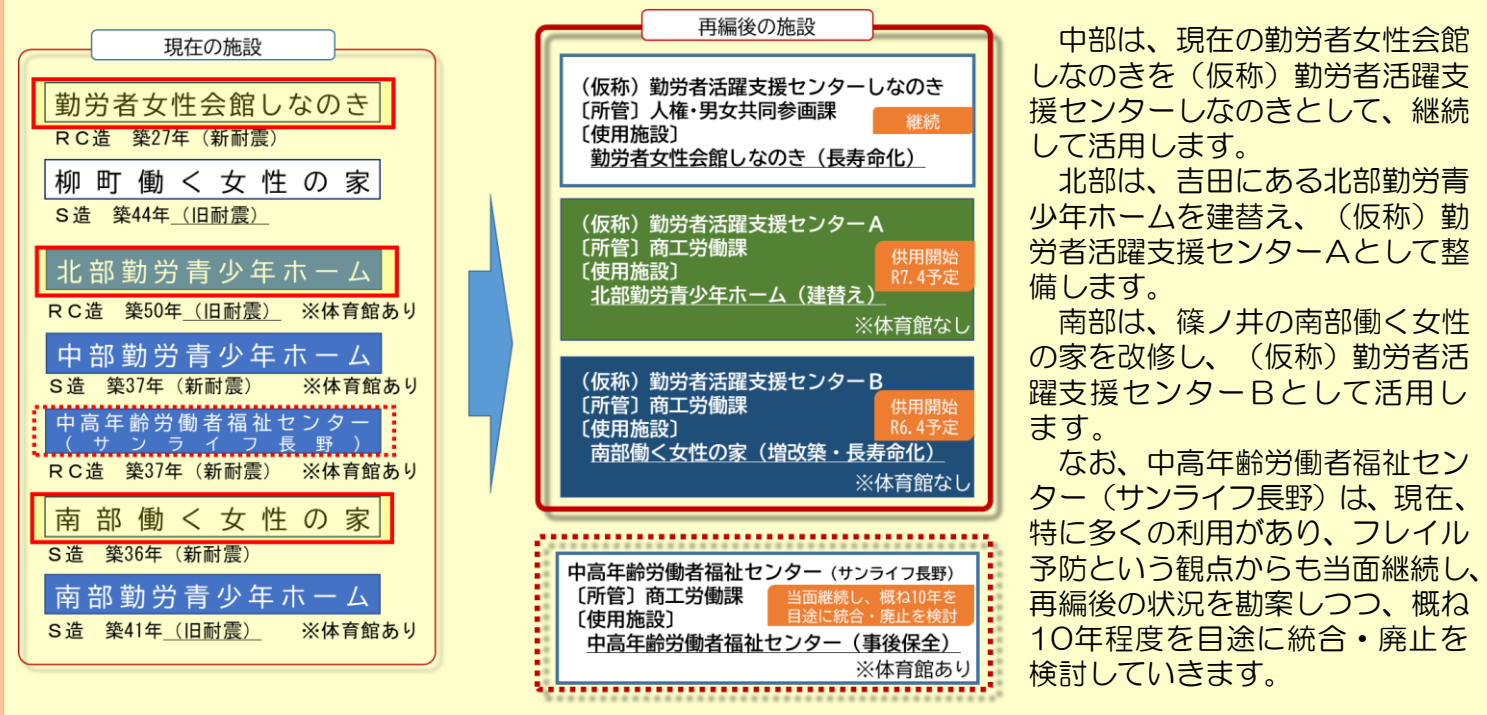
このたび、勤労青少年ホームや働く女性の家など7施設について、新たなコンセプトの下、「(仮称)勤労者活躍支援センター」として再編する方針案をまとめました。

これらの施設は、建設から約40～50年が経過し、社会情勢の変化や老朽化などから、その在り方の見直しが求められており、少子高齢化、人口減少社会を迎える中、行政として取り組まなければならない新たな課題(安定した雇用の確保、働き方改革推進、男女共同参画、健康増進など)に対応できる施設へと転換していくものです。

新たな施設が目指す姿(コンセプト)

年齢や性別に関わりなく職場と家庭で活躍し、充実した職業生活と家庭生活を送ること(ワーク・ライフ・バランス実現)を支援するための事業を実施する施設

再編の具体案：施設配置のバランスや利用実態を踏まえたアクセスなどを考慮し、中部、北部、南部に再編



中部は、現在の勤労者女性会館しなのきを(仮称)勤労者活躍支援センターしなのきとして、継続して活用します。

北部は、吉田にある北部勤労青少年ホームを建替え、(仮称)勤労者活躍支援センターAとして整備します。

南部は、篠ノ井の南部働く女性の家を改修し、(仮称)勤労者活躍支援センターBとして活用します。

なお、中高年齢労働者福祉センター(サンライフ長野)は、現在、特に多くの利用があり、フレイル予防という観点からも当面継続し、再編後の状況を勘案しつつ、概ね10年程度を目途に統合・廃止を検討していきます。

再編後は、新たにワークスペースを設け、働き方改革や両立支援に関するセミナーを実施したり、男女共同参画・女性活躍に関する講座などをより充実させたりするなど、事業を拡大します。また、施設ごとに設けていた利用対象(勤労青少年・女性など)の垣根を取り払い、広く市民が利用できる施設とします。

今後の進め方

これまで、主に施設利用者を対象とした説明会を開催して意見をお聞きしてきました。また、9月15日(水)まで施設利用者を含めて広く市民からアンケート形式で意見、提案等をお聞きしており、これらを踏まえて本年11月頃を目途に方針を決定し、来年度以降、順次再編に向けた取組を実施していく予定です。

なお、アンケートで寄せられた再編の方針案に関するご意見、ご提案など今回の再編の経過等については、市ホームページをご覧ください。

⇒ [長野市ホームページ](#) > [組織で探す](#) > (商工観光部) 雇用促進室

◆今までのニュースレターや公共施設マネジメントの情報は、HPへ!
【[長野市ホームページ](#) > [組織で探す](#) > [公共施設マネジメント推進課](#)】



公共施設マネジメント推進に対する
皆さまのご意見をお聞かせください。
次号もお楽しみに!

◆挿入キャラクター「ミーコ」の作画は、長野俊英高等学校 漫画研究部に協力していただきました。

長野市 総務部 公有財産活用局 公共施設マネジメント推進課

〒380-8512 長野市大字鶴賀緑町1613番地
Tel : 026-224-7592 Fax : 026-224-7964
E-mail : koukyou@city.nagano.lg.jp